

8. 果樹園の土壌管理等による果実安定生産技術の確立(H30~34)

背景とねらい

・集中豪雨や猛暑
・土壌環境の悪化
⇒ 生理障害の多発が懸念
<地球温暖化による影響への対応が必要>



中でも・・・
モモの核割れ ブドウの裂果などの生理障害の発生
⇒ **商品性や収量の低下が問題**



生理障害の発生は、
品種特性や栽培面に加え、
土壌面の影響も大きい



果樹の安定生産のため、
土壌管理を活用した生理障害軽減技術の確立



試験内容

1. 生理障害発生園の土壌環境実態把握(H30~32)

- 対象:モモ 核割れ、ブドウ 裂果
- ・管理方法:土壌、施肥
 - ・土壌特性:透水性、養分含有量
 - ・障害発生程度 など



⇒ **現地土壌環境の実態把握**

2. 土壌管理等による果実生理障害の発生抑制(H32~34)

土壌管理方法の効果的な活用を検討

- ・樹体、根系の生育
- ・果実品質、障害発生程度
- ・土壌水分、土壌養分

⇒ **土壌面から生理障害軽減方法の解明**



有機物資材



耕起方法



土壌改良資材



草生栽培 など

期待される効果

- ・土壌面から、生理障害を軽減する技術が確立される
- ・果実に適した土壌環境を保つことで、気候変動下でも果樹の安定生産が可能になる
(H27年度果樹栽培面積 :ブドウ4,130ha、モモ3,460ha)

